

題名 身体が不自由な人が安心して利用できる工夫

5年 久保田 彩り野

1 調べたきっかけ

市民の方が困ったときに一番利用しそうな市役所に、どのような工夫があるのかが気になって、調べることにした。

2 調べ方

大きく分けて、二つの方法で調べる。一つ目は、実際に市役所に行つての調査である。二つ目は、インターネットの調査である。

3 調べて分かったこと

(1) 身体が不自由な人が安心して利用できる工夫

・スロープ



市役所内や市役所の外に設置されている。スロープはとてもゆるやかな坂になっている。「スロープは何のためにできたのか?」(インターネット)では、「だん差がなくなり、足の不自由な方や高れいの方が歩く際にも、転とうのきけんを軽げんすることができる。スロープは車いすやベビーカーなどの車輪の付いた乗り物でも移動可能なため、乗り降りの手間がはぶけます。」と書いてあった。

・点字ブロック



市役所内の階段のところや、市役所の外に設置されている。点字ブロックはとてもデコボコしている。「点字ブロックの役わりは?」(インターネット)では、「点字ブロックは、視力が無かったり、視力が低下していたりする人が、安全に移動するために、地面やしや面に設置された四角形の案内表示である。正式には『視覚障害者ゆう導用ブロック』という。ブロックには、とっ起があり、目の不自由な人は、このとっ起を足のうらや白杖で確にんしながら進みます。」と書いてあった。

・音声案内



市役所のトイレなどのところに設置されている。音声案内は、目の前を人が通つたときに自動的に音声流れる。「音声案内の役わりは?」(インターネット)では、「音声案内とは、目の不自由な人に、音や音声(ことば)で案内するための装置である。行きたいところの場所や分かりづらい所を『ことば』で案内すれば、目の不自由な人も、分かりやすくて安心です。」と書いてあった。

(2) 新しく調べたこと

・盲導犬

盲導犬は、視覚障害者を手伝いをする犬である。「障害を知り、共に生きる」(インターネット)では、目が不自由な人の生活をサポートする犬です。特別な訓練を受けている。『ハーネス』という道具をつけています。」と書いてあった。

4 まとめ

公共の場所の一つである市役所では、みんなが過ごしやすいようにいろいろな工夫をされていることが分かった。その工夫は身体が不自由な人だけでなく他の人々にとっても、便利で助かる工夫だと思った。また、声かけや手助けは、機械だけでなく、人間の自分たちにもできることだった。こまっている人を見かけたら、声かけをして、手助けをすることを心がけたいと思った。

参考 (出典)

・点字ブロックの役わりは？

・音声案内の役わりは？

・スロープは何のためにできたのか？

・障害を知り、共に生きる